

生産性又は品質向上のための8月の生産対策

【セルバインの散布(温州みかんのみ*)】

近年の秋の長雨などは、浮皮の発生の大きな要因となっている。本年は特に、降水量が多いこと、直花が多いことから浮皮の発生が心配される。細胞肥大期の8月にカルシウム剤を散布することにより、果皮から吸収され果皮細胞を強化し浮皮の軽減となる。またカルシウム剤は葉面からも吸収され葉の細胞強化にもつながり耐病性もあがる。

使用薬剤	使用倍数	使用時期
セルバイン水溶剤	300倍	8月散布の定期防除に混用する。

*：セルバイン水溶剤は中伴柑には農薬登録がありません

【フィガロン散布】

梅雨の長雨の影響を受けて、果実内容が低く増糖効果を目的としたフィガロン散布が必要となる。さらに本年は表年であるため、後期の増糖も心配なため、フィガロン散布が効果的となる。

品種・系統	散布時期
かんきつ	8月末までに2,000～3,000倍で散布する。

【土壌改良剤（石灰資材）の投入】

土壌は放っておけば酸性雨などの影響で酸性化していく。土壌のpHを改善しないと、微生物などの活動にもふり土が硬く締まってしまう、ミカンの根の張りも衰えて養分を正常に吸収できなくなり、連年安定生産が不可能となってしまうため、石灰資材の施用は必須となる。

石灰資材名	施用量 (10a：袋)	施用時期
セルカ	6	8月
炭カル	6	
テイストセルカ	9	

※追加資材については、別表をご確認ください。